

平成29年度 第5回小平市産業振興基本計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成29年6月27日（火）午前10時から11時30分まで

場所：小平ファーマーズ・マーケット「ムーちゃん広場」

2階 グリーンホール、パープルホール

2 出席者

(1) 委員

10名

(2) オブザーバー

多摩信用金庫 長島地域連携支援部長、滝澤地域振興部長

(3) 事務局

市：産業振興課板谷課長、同増原課長補佐、同石田係長、同鎌田係長、同飯泉

多摩信用金庫：地域連携支援部 嵯峨調査役、鈴木

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 中西主幹URA

(4) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料① 施策・現行計画

資料② 現在の事業

資料③ 課題の整理

資料④ 産業振興基本計画骨子案

資料⑤ 今後のスケジュール

参考 都市計画マスタープラン概要版

4 内容(議事要旨)

(1) 報告

資料①、②及び③を用いて、事務局から現行の計画やこれまでの計画の概要とその中で、挙げられてきた課題について説明をした。

(委員) 他の長期計画は第三次長期総合計画をベースとしているが、作成からかなりたっており、今にあっているのか素朴な疑問である。長期総合計画と産業振興基本計画の関係をどう考えるのか。

(事務局) 整合性を図りながら計画策定するものである。現時点においては、第三次長期総合計画が上位計画となるものである。

(委員) 第三次長期総合計画は平成18年に策定されており古くなっているが、ベースとすることは現実的に可能なのか。

(事務局) 長期総合計画は4年毎の実行プログラムを策定してローリング方式により見直しを

している。

(委員) 第四次長期総合計画については決まっていないのか。

(事務局) 現時点では回答できない。

(委員) 既存の計画は事業環境、マーケット環境が変わってきているため使いものにならない。今のマーケットがどのように変わってきたのか、変わっていくのかを踏まえて計画を策定すべき。

(事務局) 現状を把握するために昨年度基礎調査を実施した。必ずしも既存の計画を踏襲するものではない。

(2) 議題

産業振興基本計画骨子案について

事務局から資料④を用いて、産業振興基本計画骨子案について説明をした。

(委員長) 産業振興は様々な課題があり、それから目標があり、そういった課題と目標を達成するための様々な施策を10個置いている。この10個の施策は仮に置いているもので、皆さんに議論していただきたい。また、体系図そのものの見直し、あるいは課題や目標への注文や修正改善の案を議論していただきたい。

(委員) 産業振興の方向性は農業、工業（ものづくり）、商業、観光、生活サービス、新産業の6つが考えられ、これらに共通した施策・手法として、マーケティング、地域支援、連携交流、まちづくり、情報発信、産業経済連鎖が挙げられる。特に産業経済連鎖の促進についてはぜひとも産業振興の目標に入れて頂きたい。

重点施策については、事業主体に関する施策と事業環境に関する施策に分けて整理したほうがよい。

各産業の方向性を個別に説明すると、農業では、都市農業特性のさらなる強化、マーケティングによる経営強化が必要である。農業公園もいろいろなまちづくりに役に立つ。工業では、売上高の減少や事業承継が課題となっているが、小平市の良好な居住環境といった強みを活かした産学官等の連携をすべき。そのためのプラットフォームも必要である。商業では、小商圈を形成することと、コミュニケーションが重要である。観光では、小平市内での暮らしぶり（小平らしさ）が観光振興の基軸になるのではないか。そのためにマーケティングとマネジメントの強化が必要である。

(委員長) 産業経済連鎖というところを盛り込んでほしいということ、施策を少し整理する必要があるということ。続いて意見を願います。

(委員) 時間の関係上回答は不要だが、国や東京都から産業振興、農業振興、地方創生や多摩地域振興などについて、最近いろいろな施策がでていますが、小平市として今回の計画を進めるにあたって、国や都の施策をどのように受け止めているのか質問したい。

骨子案については、第4章が取り組むべき課題となっているが調査から得られた課題とそれ以外の課題を受けて、将来像と基本方針を立てて、目標に行き、次にそれを実現するための課題があった方が私にはわかりやすい。また、将来像は「産業（仕事）と暮らしがとけあい、人が住みたくなる、企業が活動したくなるまち」という案はどうか。

取り組むべき課題については、施策の効果測定指標の設定すなわちKPIが必要であ

る。また、あらゆる面での ICT の活用、企業・NPO・市民との連携、東京都や他の自治体との連携が必要である。重要施策については、整理が必要である。

(委員長) 施策の効果測定指標の設定は入れた方がいいという希望である。また、第7章の施策については整理するべきということ。

施策について、それぞれの立場から思いつきでもよいので意見や質問をお願いします。

(委員) 大学連携はイメージできるが、高校連携は具体的にどういう事をイメージしているのか。

(事務局) 高校との連携については若い活力や発想を取り組んでいくということをイメージしている。

(委員長) 職場体験を通して小平市にこういう職があるといったことを理解した上で、こういう職に就きたいと希望を持つこと、あるいは職業を理解するということは非常に大事であると思う。

(委員) テーマとしてはほぼ網羅されており、良いと思う。

(委員) 稼ぐ力の向上、所得税収を生み出す基盤となる産業振興、市内産業の高収益化というところが産業振興の大きなテーマなのかと感じる。施策については高収益を上げる施策が物足りない。具体的な目標を掲げるのも良いと思う。できればこの計画の中で、どのくらい投資をし、いくら税収に返ってくるかということが評価できるような項目が入っていると良い。

(委員長) 第8章では高収益を上げるといった要素を考える。他の委員からはいかがか。

(委員) 小平の暮らしを来訪者が楽しむということは良く分からないが、都心部に住んでいる人をターゲットとすると、やはり小平のお勧めポイントは農業であったり、自然であったりするのではないかと思う。

(委員長) 都市部の人たちに対して、小平市の農業や自然というものを考えた施策が必要ということ。主婦の立場で働きやすい施策はあるか。

(委員) やはり近くで働けた方がよい。しかし実際市内で働くとなると、レジのパートやコンビニ店員が真っ先に思い浮かぶ。

(委員長) 施策として、主婦が近くで働ける環境が非常に多くなればよい。他に施策に入れるべきことはあるか。

(委員) 広報という部分は施策に入れた方がよい。実際にやっただけではなく、見直しし、改善したことを全部外に出していかないともったいない。これだけのことをやっている、進めようとしているという姿勢を外に見せていくことは非常にポジティブだと思う。

(委員長) 広報という点は触れていなかったの何か入れられる様に工夫したい。他に意見はあるか。

(委員) 中小企業支援、特に小規模事業者の経営支援を特に重点を入れてやってほしい。商店街を形成しているのも小規模事業者であるし、工場も小規模事業者が多い。人手不足といった問題もあるので、ICT活用や支援を入れてほしい。高齢化しているので、ほとんど使ったことがない、設備も持っていない人が多くいる。

(委員長) 広くいろいろな人が使えるようにするための勉強会や研修会も含めた施策の提案と

いうことになる。

(委員) 子供と大人の農業のふれあいツアーを観光振興の方と連携して増やしていき、農業振興のPRにつなげたい。

(委員長) オブザーバーから意見を。

(オブザーバー) 身の丈にあった産業振興計画にしていくべき。また、年配の人向けではなく、これからの人たち向けの産業振興をやっていかなければならないので、もう少し先を見据えた形になっていかないかな、と感じた。

一つに、基礎自治体としてやるべき事と、広域でやるべき事、民間でやるべき事を分けないとやりきれなくなる。どのようにやっていくのか当事者を決める必要がある。

次に、当事者のやる気や熱意がそこまではないと感じる時がある。そういう時にどこまでできるのかということを考えていかなければならない。

最後に、優先順位を決めないとならない。計画の推進体制では戦術ということを入れていくことが必要。国や都の施策が多摩に向かってきている所もあるので、そういったことも入れていくと良い。

(委員長) 副委員長から意見を。

(副委員長) 各委員のアイデアには使えるアイデアがたくさん入っていた。重点施策の順番や整理の仕方など必要と感じた。

(委員長) 最後にオブザーバーから感想や意見を。

(オブザーバー) これから作る産業計画は、まずはお金をどう回していくかということが重要。それ以外にお金では測れない部分でどうつながっていくかということも重要な部分であるということが今日の議論であったと思う。結果的に人がつながる事でお金も回っていくということが、産業が振興していくということに繋がるのではないかと思う。

(委員長) 本日の意見を受けて、骨子案を修正・整理し、次回の委員会では修正案を踏まえながら、ブレイクダウンした具体的な素案を議論していただくということとする。

(3) その他

今後の日程等について

事務局から、資料⑤を用いて、今後の日程等について説明した。

(委員長) 次回は8月16日10時から開催する。それでは、第5回検討委員会を終了とする。

以 上